

第22回定期総会を終えて



白門経友会

毎年六月初旬に開催している白門経友会定期総会は、今年で二十二回目となり、六月二日（土）に次のようなプログラムで実施し、滞りなく了承されました。

一、日 時

平成二十四年六月二日（土）午後二時開会

二、場 所

中央大学多摩キャンパス
七号館 7103教室

三、プログラム

（1）定期総会 十四時～十四時三十分

（1）平成二十三年度事業報告・予算案
（2）平成二十四年度事業計画・決算報告

（3）その他

引き続き、講演会として、

「日本の農業とTPP」を演題に経済学部の大須眞二教授にお話ををしていただきました。時宜に適したテーマで、分かりやすくTPPの経緯と現状について解説いただき農業分野を中心に関後の課題等問題意識を深められる内容でした。また詳細な配布資料も用意いただき大変有益な講

演会となりました。

講演会の後は、会場を生簾で囲んで、一階ラットーに移り懇親会を開きました。参加者は多く、本氏をはじめ三五野、鳥居、蘇州からお越しいただき、各自紹介等をおこなつて、懇親会を盛り上げました。

なお、定期総会の後の七月の幹事会では、今後より多くの会員を確保することや総会以外でも学生を含めた交流の場を設けることなどが課題としてあげられ、検討を進めていきます。会員各位におかれましても、今は後援会合等へのご参加とともに一層のご協力をお願いする次第です。

最後に、本会の運営につきましては、谷聖子経済学部事務長の献身的なご協力により進められておりここに厚く感謝申し上げます。

文 常任幹事 佐藤文博

福井千春先生
经济学部准教授
鳥居鉄太郎
を偲んで

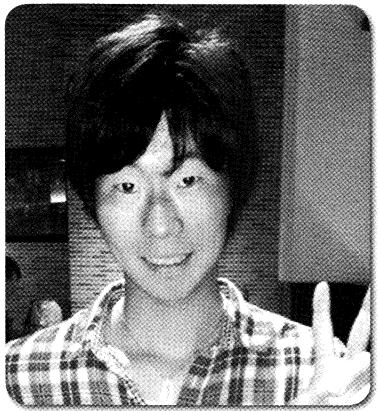


午前8時某分、まだ静まり返っている2号館10階ではコーヒービー豆を挽く音が朝を告げ、その研究室の一日が始まります。そう、福井研究室のスタートは、ほのかに香るコーヒーが開始の合図ともいえました。そんなりズムもいつからか途切れ、どうしたのがと氣をもんでいた矢先のことでした。福井千春先生に初めてお会いしたのは情報環境研究会に参加させていただいた1997年と、ずいぶん前になります。同年のICT産業調査では、先生の印象がとても強かつたことを覚えています。訪問先のパソコンデバイス工場でのこと、半導体チップの組み込み過程を見学し、製品の構造と性能にとても感心されました。ご専門とはかけ離れた分野なのにということで驚いた訳ですが、教育への情報活用も積極的に試みられた先生には、当然の探究だつたのだと思います。

その後何度も一緒にさせていただいた調査活動を通して先生の姿勢に啓発され、私自身気を引き締めてきたことは言うまでもありません。

福井先生、これまでのご指導、本当にありがとうございました。そして、先生の入れたてコーヒーを一度でもご馳走になりたかったです。どうぞ安らかにお眠りください。

キャリアデザインを通して 学んだこと



経済学部三年 加藤 翔

そんな時期だからこそ、今はたくさんのことに挑戦し、失敗し、多くの経験を積むべきなのだと強く感じました。

実際に今までの私は、正直挑戦とい

私は今3年生で、ちょうど進路選択を迫られている時期にあります。この時期になつてこんなことを言うのも恥ずかしいですが、正直私は未だに将来自分がどんな業種に進みたいのか、どんな仕事をしたいのかが定まっていません。そんな

3年前期に私はこのキャリアデザインの授業を受け、思つたことが多数あります。まず一つは、講師の方々の多くがおしゃられていた、失敗を恐れずに何事にも挑戦すべきだということ。大学生活というのは、人生の中できわめて自由がきく最後のチャンスだと私は思います。

私は今3年生で、ちょうど進路選択を迫られている時期にあります。この時期になつてこんなことを言うのも恥ずかしいですが、正直私は未だに将来自分がどんな業種に進みたいのか、どんな仕事をしたいのかが定まっていません。そんな

3年前期に私はこのキャリアデザインの授業を受け、思つたことが多数あります。

次に、私が最も印象に強く残つた講義

があり、それは志茂田景樹さんの講

義です。志茂田さんは、服装や髪形といつ

たフツシヨンのことだけでなく、生き

方まゝも自分の信念を貫いている、本当に自己」というものを持っている方だと思

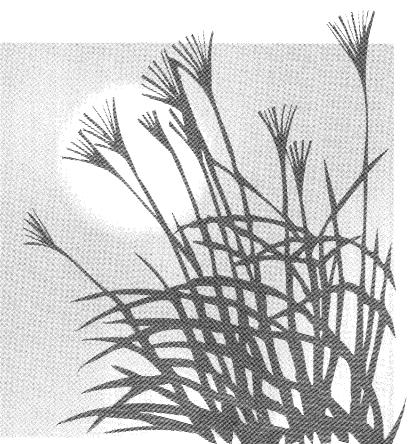
います。いま、た。そして講義でもおつしやつて

いましたが、自分の進路、考えに妥協を

してはいけないというのは今でも強く心に残っています。就活というのは人生においてほんのわずかな時間ではあります。が、自分の人生を決める一つの大きなボイントになります。そこで妥協することなく、自分の思ったことを全力でやり通すことが、キャリアデザインで講義をしてくださった志茂田さんへの恩返しだと思っています。

そして、私が最も驚いたことは、講義をしてくださった多くの人々が転職を経験しているということです。上述したように、就活が人生の中で大きなポイントになることは間違ありません。しかし、それは人生のすべてではないのです。働き出してからもやり直しあはいくと、いうことも、このキャリアデザインで学ばせていただきました。自分に本当にあつた仕事がどんなものなのかはいつ分かるかもわかりません。それでも、本当の自分の”天職”を探すためにこの残された大学生活を送つていきた」と思いました。

直接講義をしていただけるのは、長い歴史と伝統のある中央大学だからこそだと思います。本当にこのキャリアデザインには感謝したいと思います。



業種・業界に進まれた多くの先輩方から

思いました。本当にこのキャリアデザイ

ンには感謝したいと思います。

キャリアデザインを通して 学んだこと



経済学部三年 小西 淳美

キャリアデザインの授業についてこの授業を通して学び取った事柄を印象的であつた講師の話から述べる。

この授業を通して多面的な職業、豊富なキャリアを持つたくさんの講師の方々から貴重なお話を聞くことができた。その中でも印象的であつた講師の一人は、株式会社プレイフルに勤める高田圭吾先生だ。高田先生からは就職・仕事・人生について学んだ。就職活動や仕事を通じて気づいたキャリアについて多くを教わった。例えば①キャリアは直線的に作られる側面を持つ③仕事をする中でや

りたいことが見えてくる(自分の弱みにこだわらない)面白そう」と感じられる事を選ぶ②の会社に入つて学ぶ。そこが出来る。また企業が欲する材についても学び得た。同時にこれらは、人間との関係から切り離せない。我々の社会には必要な能力なのでは?と思つた。仕事の知識・仕事のすすめ方・会社、社会の仕組み、それに相手の気持ちを察知しそれに応える力・コミュニケーション能力・臨機応変さを主張したことだ。他の講師が持つ多くの事柄を学び得た。金融コンサルティングを職業とする講師の方からは、自己分析をするな・自分探しをするな一件事であつたがこれは私にとって少し驚きだった。自己分析は就職活動の過程で不可欠であると思つていたからだ。仮に他者によって半強制的に自己分析をしたとしても、自分がどのような人物で他人と何が違う何を求めるかをすべて知ることは不可能であろうから納得いくお言葉だつ

た。

総括して多くの講師からお話を聞いたところ、職業観が育成され、自己の興味や適正を認識することができ、自己の発見とともに他者に共感する能力を養うことができる。また起業家精神や国際的視点について学ぶ事ができた。

この講義に参加して、ただいた講師の方々から学び得たことに共通していることは「努力なしに成果は得られない」とは「前向きな気持ちの持ち方」だ。自分の「前向きな気持ちの持ち方」だ。自分の人生において、自分の力を100%發揮して可能な限り実践し努力する前向きな気持ちを得た。私は努力とは主体的、目的的になされるとみなしている。この講義を受ける以前の私をさうであつたが、多くの人々の目には世の中の人々はずいぶんと身を削つて働いているような印象を受けていたはずだ。私はこれから進路設計をしていく必要があり、それは就職活動を今年の冬に迎えた今、人生の一種「土台」のようなものを築き始めることを意味するのではないかと思う。多くの不安を抱える中でも、企業研究、自己の興味・適正の認識や職業の視野拡大への努力を怠らないように働きかけてくれた。学び取った概念を「努力する」という目に見えない形で、長い目で見て人生を豊かにするための人生設計に活かされ



ることを期待している。またその努力とは語学の勉強や協調・コミュニケーションを座学や実践で学ぶ事が具体的に言え、目に見えないものでも学習しようとする姿勢や考え方を止めることはしてはいけないだろうとの授業を通して思つた。

地球科学に魅せられて

経済学部 教授 中野 智子



るというスタイルで研究を続け、これまでロシアや中国、エングルで調査を行つてきました。ここではロシアでの調査の様子を紹介させていただこうと思います。

さを感じたものでした。また、網目状になつた地形（構造土）や中心に氷の核を持つ小山状の地形（ピング）も随所に見られ、日本とは全く違つた景観に、世界は広いのだなと強く心を動かされました。

一方で、心底大変、という目

周りの人と同じように、後ろに並んでいる人の顔をじっと見ながら、用を足したのでした。数名のロシア人研究者と一緒に調査を行いましたが、みなさん、とても気のいい人たちで、調査の際には大変助けられました。

肌に感じる空気も朝晩は寒く
感じるようになりましたね。

数年前から経友会へ学生の参
加が多くなり、会の雰囲気も大
分和やかになりました。

の草本群落に覆われ、釧路湿原や尾瀬ヶ原のように青々と風に揺れる湿地草原の風景が広がっているのです。小さな可憐な花もたくさん咲いており、その美

ような経験をいくつもしました。今も強烈に覚えているのは、空港のトイレ（個室）にドアがついていなかつたことです。床には橜円形の穴が開いているだ

とができました。おかげで精神的にかなり強くなり、タフな人間に成長できたと思っています。

こんな私ですが、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

経済学部に二〇〇九年四月に着任いたしました中野智子と申します。経済学部の専任教員ではあります、理学部の出身で、現在は「地球科学」、「環境科学」などの講義を担当しています。大学院生のころから、地球の気候変動に興味があり、特に温室効果気体と呼ばれる二酸化炭素やメタンガスの自然の中での動態を研究対象としてきました。湿地や草原など自然の生態系の中でも、メタンガスや二酸化炭素がどの様に吸収・放出されているのかを実際に野外で測定す

にソ連が崩壊してロシアに
り、外国人研究者に門戸が開
けたばかりの時期でした。シ
リアの中でも比較に近いツン
ラ地域で、地表面から発生す
メタンガスの量を測定する、
いうのが調査の目的でした。

にもすいふん遭しました。湿地帯で作業するときの一番の困難は、蚊の襲来でした。人の周りに黒いベールのごとく蚊がたかたり、洋服の上からでも容赦なく刺してくるのです。日本製の虫よけスプレーなども全く役にたちません。野外で作業するときには、必ず蚊よけのネットを頭にかぶり、ナイロンの雨具を上下とも身につけ、汗で蒸れるのを必死でこらえながら頑張つたものでした。

うした人の貞さは知人に好んでのみ發揮され、他人に対してもひどく冷たい態度で接するのです。例えば、レストランのウェーテレスなどは、サービスという言葉とは全く無縁で、にこりともしませんべし。銀行でお金を両替するために二時間並び、その挙句に昼休みになつたからと目の前でカウンターを閉じられてしまつたこともあります。研究機材を通関させるのに、空港の係官に一〇〇ドル札を握らせたこともあり、日本ではあり得ない経験をいろいろするこ

2012年11月1日 第49号

発行 白門経友会常任幹事会
発行人 白門経友会編集委員長
鈴木秀男
〒192-0355 八王子市掘之内817番地
鈴木様方
TEL 042 (676) 8266 (代)
FAX 042 (674) 8668
E-mail:dome88@themis.ocn.ne.jp
郵便振込口座 00180-7-753686

す。
後輩達との交流は次世代への
メッセージを伝える事と同時に
自身のリフレッシュにもなりま
るものなど感じます。

湿地や草原など自然の生態系の中で、メタンガスや二酸化炭素がどの様に吸収・放出されているのかを実際に野外で測定す

土が存在し、^上を五〇センチ掘ると、地下水の顔を出します。ところが、夏には地表付近の壤が融解するため、表面は湿

を必死でこれらながら頑張った
ものでした。

た。研究機材を通関させるのに、空港の係官に一〇〇ドル札を握らせたこともあり、日本ではあり得ない経験をいろいろするこ

2012年11月
発行白門
発行人白門
鉢
〒192-0355八王
TEL 042
FAX 042
E-mail: dome
郵便振込口座

2012年11月1日 第49号
発行 白門経友会常任幹事会
発行人 白門経友会編集委員長
鈴木秀男
〒192-0355 八王子市堀之内817番地
鈴木様方
TEL 042 (676) 8266 (代)
FAX 042 (674) 8668
E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp
郵便振込口座 00180-7-75368